

インターネット自動給餌機 「餌ロボ」

— パシフィックソフトウェア開発株式会社 —

弊社は主に機器を動かす制御系システム開発を得意とするソフトウェア会社で、高知県にて創業53年を迎える企業です。機器を含めたシステムの開発や多種多様なハードウェア（機械）の設計・開発の実績もあり、その中で培った技術を基に様々な分野にて活躍するシステムを開発しております。今回展示させていただきましたインターネット自動給餌システム「餌ロボ」も長年にわたる技術蓄積から生まれた製品の一つです。

ユーザー様との協力

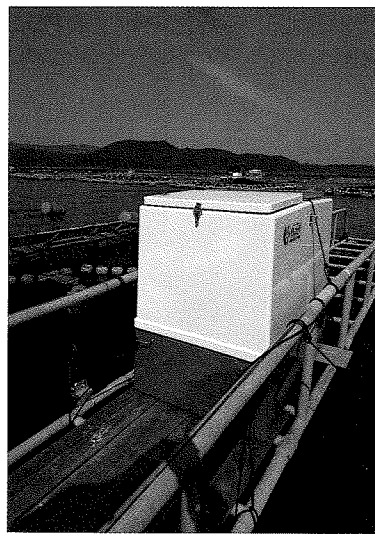
「餌ロボ」を開発するにあたり弊社が目指したのは、インターネットやデジタル機器を利用したIoT技術により養殖業が抱える様々な問題を解決できる製品づくりです。その為、実際に養殖現場を訪ね、実際の給餌や日々の業務を見学させていただきました。そこから学んだ知識を開発に反映し、養殖の現場で活

躍できる給餌機をユーザー様の協力を得ながら作り上げてまいりました。

インターネット自動給餌システム「餌ロボ」当社が開発した「餌ロボ」は、給餌スケジュールを従来品よりも細やかに行える機能を持ち、様々な条件判断により無駄な給餌を抑えることが可能です。給餌時の養殖魚の状態を超音波センサーによって捉え、捕食活性が下がると給餌を中止する機能が大きな特長で、水質（濁り）や日照に係わらず状態を確認することができます。また、インターネットを利用してスマホやPCから遠隔で生簀確認、給餌操作などが行えるシステムです。

これからの「餌ロボ」

2019年から「餌ロボ」の販売を本格的に開始し、導入していただいたユーザー様から様々な声をいただいております。導入後は業務の効率化が進み、特に人件費を削減できたことにより他の業務を行える時間ができたとの評価が多くありました。今後もユーザー様からの様々なご意見を得ながら改良改善を繰り返し、より良い製品をご提供できるよう努めてまいります。



生簀に設置した「餌ロボ」



海上に並ぶ「餌ロボ」

いざ輸出!! イスラム市場へ日本の水産業界

ハラールビジネスでニッチトップ戦略 ②

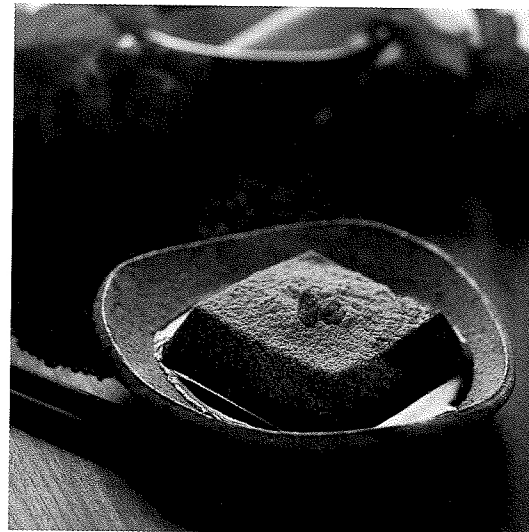
全世界に20億人とも言われるイスラム教徒のハラールマーケットは、輸出、インバウンド共に今後成長が見込まれます。一般社団法人ハラール・ジャパン協会が推薦する、ハラール認証を取得し、イスラム圏への輸出・進出に挑戦する企業を連載で掲載してまいります。

企画：一般社団法人ハラール・ジャパン協会 ホームページ：<https://jhba.jp>

有限会社 法本胡麻豆腐店

有限会社 法本胡麻豆腐店は、1952年に長崎県佐世保市で創業しました。現在、三代目が伝統を受け継ぎ、創業当時と変わらぬ製法で胡麻とうふを作り続けています。

かつては地元の朝市で販売を行っていましたが、大手スーパーの進出による朝市の縮小を機に新たな販路を求め、関西・関東地域に進出しました。さらに、「日本の食文化を世界へ」という想いのもと、香港、上海、シンガポールなどアジアを中心に、北米、EU、オーストラリア、中東など海外輸出にも積極的に取り組んでいます。輸出向けの胡麻とうふ商品開発にも力を入れ、世界各国で多くの支持を得ています。



現在は約20種類の胡麻とうふを製造し、「良い食品づくりの会」にも加盟。日本全国の百貨店やこだわりのお店・スーパーマーケットなどで販売しています。創業70余年、胡麻とうふ専門店として、変わらぬ品質と味わいを守りながら、手間を惜しまぬ製法で日々美味しい胡麻とうふづくりに励んでいます。

「長崎から世界へ!! 伝統と革新の胡麻とうふ 創業70年の伝統と挑戦。」

インタビュー背景

昨今の原材料費高騰や価格競争の激化は、食品業界全体に大きな影響を及ぼしています。品質にこだわる専門店にとっても、経営の課題となっています。そのような状況の中、有限会社法本胡麻豆腐店は新たな挑戦としてハラール認証を取得。国内外で高い評価を受ける胡麻とうふ製品を開発しました。

今回のインタビューでは、代表取締役・法本憲一郎様に、ハラール認証取得の経緯と輸出事業戦略についてお話を伺いました。

①なぜハラール認証を取得したのか

東南アジアを訪れた際、ハラール対応の重要性を改めて実感しました。世界の人口のおよそ4分の1がイスラム教徒であり、この市場への対応が求められる中で、胡麻とうふはその可能性を秘めています。

もともと胡麻とうふは精進料理として、僧